

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成26年11月13日
【四半期会計期間】	第63期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第2四半期連結 累計期間	第63期 第2四半期連結 累計期間	第62期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (千円)	10,822,747	10,889,697	22,946,745
経常利益 (千円)	898,195	721,585	2,361,986
四半期(当期)純利益 (千円)	492,646	412,980	1,278,158
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	489,419	428,012	1,270,591
純資産額 (千円)	7,268,173	8,062,203	8,049,250
総資産額 (千円)	13,804,957	13,995,143	14,557,593
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	47.49	39.81	123.21
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.6	57.6	55.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	545,061	577,226	1,845,777
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	506,621	352,964	523,475
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	264,640	620,051	938,682
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,880,734	2,094,765	2,490,554

回次	第62期 第2四半期 連結会計期間	第63期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	34.60	29.09

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは、平成26年9月に健康食品事業の再構築を行うため、純藍株式会社（セグメント名称「その他」）を設立いたしました。また、前連結会計年度末において清算中でありました株式会社国武商店（セグメント名称「販売子会社」）は、平成26年7月に清算終了いたしました。

この結果、平成26年9月30日現在では、当社グループは、当社と子会社19社（うち非連結子会社1社）により構成されております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における事業環境は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減、物価上昇及び税負担感増加に伴う購買意欲の減退に加え、夏場の大雨や台風による天候不順の影響を受け、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、既存ブランドの育成及び主力商品の強化はもとより、持続的な成長に向け、『ニューコンセプトメーカー』のテーマのもと、新商品・新店舗・新ブランド創り、新ビジネス、海外展開を強化ポイントに、取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、10,889百万円（前年同期比0.6%増）となり、僅かながら前年同期を上回ったものの、利益面では、人件費の増加などにより販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は712百万円（前年同期比19.7%減）、経常利益は721百万円（前年同期比19.7%減）、四半期純利益は412百万円（前年同期比16.2%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「ジャパルシー」について量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しており、以下の記載における前第2四半期連結累計期間との比較は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき組み替えた数値を使用しております。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、通販部門が、消費税増税の影響による受注の減少が見込まれたため、費用対効果を考慮し、販促活動を抑制したことにより、売上高は前年同期に対し減収となった一方、主力商品「ルタオプレミアムまあある」の道内での卸展開の強化などにより全体では増収で推移いたしました。また、昨年7月、東京・表参道に立上げましたアントルメグラッセ専門店「GLACIEL（グラッセル）」は、認知度の向上に向け、通販・催事展開など販売チャンネルの拡大に努めました。

その結果、売上高は、3,688百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は285百万円（前年同期比7.3%減）となりました。

寿製菓

寿製菓は、新商品開発による新製造ラインの構築とOEM販路の拡大に注力した一方、山陰地区が昨年3月に開通した鳥取及び松江自動車道開通効果の反動減、出雲大社の遷宮効果の一巡などにより減収となった結果、売上高は3,850百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は283百万円（前年同期比31.5%減）となりました。

販売子会社

販売子会社は、関西地区は、新商品「九条ねぎ京えびせんべい処」及び「神戸三宮フレンチトーストラングドシャ」などの新商品の拡販により増収で推移しました。一方、東海地区は、主力商品「小倉トーストラングドシャ」の拡販に努めたものの、伊勢方面が遷宮効果の反動減で苦戦いたしました。その結果、売上高は2,217百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益は95百万円（前年同期比22.0%減）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、昨年6月、福岡・大名に立ち上げましたフレンチトースト専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」の2号店を本年4月に東京・渋谷にオープンするなど新業態店の認知度拡大に注力いたしました。その結果、売上高は、新規出店の増加などにより、1,575百万円（前年同期比8.4%増）と増収となった一方、利益面では、人件費の増加などにより販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は22百万円（前年同期比56.1%減）と減益になりました。

但馬寿

但馬寿は、新商品開発に注力した一方、グループ向け売上の低迷などにより売上高は529百万円（前年同期比8.1%減）、営業利益は26百万円（前年同期比40.6%減）となりました。

シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、各ブランドの知名度向上に向け、販促及び接客強化による消費者への訴求力の向上に努めました。また、新規出店では9月に新ブランド「東京フィナンシェ」を立ち上げ東京駅に出店いたしました。その結果、売上高は、1,287百万円（前年同期比17.5%増）となり、営業利益は52百万円（前年同期比129.6%増）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業及び通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。健康食品事業は、事業の再構築に向け、本年9月をもって会員制直販事業を中止いたしました。また、通販基幹業務システムサービス事業におきましても、事業中止に向け既存会員の他社サービス等への移行を進めました。その結果、売上高は15百万円（前年同期比85.7%減）となり、営業損失は36百万円（前年同期は営業損失104百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、13,995百万円となり、前連結会計年度末と比べ562百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（395百万円）、受取手形及び売掛金の減少（230百万円）及び商品及び製品の増加（91百万円）などの要因によるものです。

負債は、5,932百万円となり、前連結会計年度末と比べ575百万円減少いたしました。主な要因は、流動負債における未払法人税等の減少（380百万円）、その他の減少（122百万円）、長期借入金の減少（153百万円）などの要因によるものです。

純資産は、8,062百万円となり、前連結会計年度末に比べ12百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加（412百万円）及び有価証券評価差額金の増加（15百万円）、配当金の支払いによる減少（414百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.3ポイント増加し、57.6%となり、1株当たり純資産は777円20銭となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ395百万円減少し、2,094百万円（前年同期比11.4%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、577百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益704百万円、減価償却費の計上302百万円、売上債権の増減額230百万円の計上があった一方、法人税等の支払678百万円などの減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、352百万円（前年同期比30.3%減）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出320百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、620百万円（前年同期比134.3%増）となりました。

主な要因は、配当金の支払414百万円及び長期借入金の返済による支出190百万円などの減少要因によるものであります。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、24,948千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(注) 当社株式は、平成26年4月3日をもって、東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
エスカワゴエ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎9丁目8-24	2,600	25.06
河越 誠剛	鳥取県米子市	527	5.08
寿スピリッツ従業員持株会	鳥取県米子市旗ヶ崎2028	392	3.78
株式会社山陰合同銀行	鳥根県松江市魚町10	300	2.89
とりぎんリース株式会社	鳥取県鳥取市扇町9番地2	254	2.45
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシーリフィデリ ティファンズ (常任代理人 香港上海銀行 東京支店)	50 BANK STREET CANA RY WHARF LONDON E1 4 5 NT, U K (東京都中 央区日本橋3丁目11-1)	192	1.85
日本マスタートラスト信託銀 行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	177	1.71
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2-10-17	120	1.16
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4-20-1	120	1.16
高橋 紀代子	鳥取県米子市	111	1.07
計	-	4,794	46.21

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,372,000	103,720	-
単元未満株式	普通株式 1,440	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,720	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	400	-	400	0.00
計	-	400	-	400	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,690,554	2,294,765
受取手形及び売掛金	2,489,507	2,258,543
商品及び製品	563,946	655,145
仕掛品	40,319	32,333
原材料及び貯蔵品	347,481	339,888
その他	474,954	518,375
貸倒引当金	26,348	29,714
流動資産合計	6,580,413	6,069,335
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,183,184	3,120,486
機械装置及び運搬具(純額)	735,404	737,044
工具、器具及び備品(純額)	246,448	238,057
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産(純額)	10,754	9,841
建設仮勘定	7,531	14,760
有形固定資産合計	6,683,988	6,620,855
無形固定資産	105,678	108,210
投資その他の資産		
その他	1,207,509	1,214,526
貸倒引当金	19,995	17,783
投資その他の資産合計	1,187,514	1,196,743
固定資産合計	7,977,180	7,925,808
資産合計	14,557,593	13,995,143
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	790,630	854,484
短期借入金	1,650,000	1,650,000
1年内返済予定の長期借入金	355,628	318,468
未払法人税等	677,175	296,632
賞与引当金	412,990	445,770
その他	965,975	843,323
流動負債合計	4,852,398	4,408,677
固定負債		
長期借入金	575,185	421,531
退職給付に係る負債	846,071	874,964
その他	234,689	227,768
固定負債合計	1,655,945	1,524,263
負債合計	6,508,343	5,932,940

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	5,489,008	5,487,051
自己株式	421	543
株主資本合計	8,029,548	8,027,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,702	34,734
その他の包括利益累計額合計	19,702	34,734
純資産合計	8,049,250	8,062,203
負債純資産合計	14,557,593	13,995,143

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	10,822,747	10,889,697
売上原価	5,185,572	5,270,377
売上総利益	5,637,175	5,619,320
販売費及び一般管理費	4,750,061	4,907,205
営業利益	887,114	712,115
営業外収益		
受取利息	218	174
受取配当金	1,852	2,087
受取地代家賃	8,057	8,023
その他	22,101	18,114
営業外収益合計	32,228	28,398
営業外費用		
支払利息	15,764	11,310
その他	5,383	7,618
営業外費用合計	21,147	18,928
経常利益	898,195	721,585
特別損失		
固定資産売却損	76	-
固定資産除却損	5,253	5,881
減損損失	-	11,513
特別損失合計	5,329	17,394
税金等調整前四半期純利益	892,866	704,191
法人税等	400,220	291,211
少数株主損益調整前四半期純利益	492,646	412,980
四半期純利益	492,646	412,980

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	492,646	412,980
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,227	15,032
その他の包括利益合計	3,227	15,032
四半期包括利益	489,419	428,012
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	489,419	428,012

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	892,866	704,191
減価償却費	288,980	302,307
減損損失	-	11,513
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,385	1,154
賞与引当金の増減額(は減少)	41,017	32,780
退職給付引当金の増減額(は減少)	19,681	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	28,893
受取利息及び受取配当金	2,070	2,261
支払利息	15,764	11,310
固定資産売却損益(は益)	76	-
固定資産除却損	5,253	5,881
売上債権の増減額(は増加)	32,244	230,964
たな卸資産の増減額(は増加)	29,857	75,620
仕入債務の増減額(は減少)	8,870	63,854
その他	283,121	49,867
小計	994,088	1,265,099
利息及び配当金の受取額	2,139	1,752
利息の支払額	14,744	11,101
法人税等の支払額	436,422	678,524
営業活動によるキャッシュ・フロー	545,061	577,226
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	300	-
定期預金の払戻による収入	1,300	-
投資有価証券の取得による支出	603	501
有形固定資産の取得による支出	405,064	320,785
有形固定資産の売却による収入	57	-
無形固定資産の取得による支出	14,125	20,625
関係会社株式の取得による支出	63,336	-
出資金の回収による収入	475	191
敷金及び保証金の差入による支出	2,287	14,192
敷金及び保証金の回収による収入	10,932	2,724
その他	33,670	224
投資活動によるキャッシュ・フロー	506,621	352,964
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	-
長期借入れによる収入	450,000	-
長期借入金の返済による支出	483,890	190,814
ファイナンス・リース債務の返済による支出	12,046	6,678
自己株式の取得による支出	-	122
配当金の支払額	311,204	414,937
その他	7,500	7,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	264,640	620,051
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	226,200	395,789
現金及び現金同等物の期首残高	2,106,934	2,490,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,880,734	2,094,765

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度に連結子会社でありました株式会社国武商店は平成26年7月に清算したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

また、第2四半期連結会計期間より純藍株式会社を設立し、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
従業員給料・賞与	1,323,721千円	1,420,986千円
販売促進費	854,272	830,622
貸倒引当金繰入額	4,385	1,155
賞与引当金繰入額	189,454	224,045
退職給付費用	15,886	29,574

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	2,420,734千円	2,294,765千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	540,000	200,000
現金及び現金同等物	1,880,734	2,094,765

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	311,204	30.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	414,937	40.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シユクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,208,193	2,702,678	2,249,380	1,313,081	147,364	1,095,404	10,716,100
セグメント間の内部 売上高又は振替高	402,648	1,303,736	-	140,391	429,010	-	2,275,785
計	3,610,841	4,006,414	2,249,380	1,453,472	576,374	1,095,404	12,991,885
セグメント利益 (は損失)	307,415	413,646	123,049	50,620	44,972	22,954	962,656

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	106,647	10,822,747	-	10,822,747
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,218	2,277,003	2,277,003	-
計	107,865	13,099,750	2,277,003	10,822,747
セグメント利益 (は損失)	104,354	858,302	28,812	887,114

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額28,812千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額300,687千円、セグメント間取引消去額6,566千円、たな卸資産の調整額4,938千円、各報告セグメントに配分していない全社費用273,503千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,244,297	2,560,813	2,215,264	1,432,030	135,606	1,287,301	10,875,311
セグメント間の内部 売上高又は振替高	443,742	1,289,555	2,033	143,171	394,215	-	2,272,716
計	3,688,039	3,850,368	2,217,297	1,575,201	529,821	1,287,301	13,148,027
セグメント利益 (は損失)	285,111	283,225	95,951	22,236	26,720	52,710	765,953

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	14,386	10,889,697	-	10,889,697
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,068	2,273,784	2,273,784	-
計	15,454	13,163,481	2,273,784	10,889,697
セグメント利益 (は損失)	36,754	729,199	17,084	712,115

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額 17,084千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額307,324千円、セグメント間取引消去額8,831千円、たな卸資産の調整額 6,092千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 327,147千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「ジャパルシー」について量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第2四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は11,513千円です。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載していません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載していません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	47円49銭	39円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	492,646	412,980
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	492,646	412,980
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,476	10,373,376

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月5日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。